

しみず やすゆき

清水康之さん NPO法人 自殺対策支援センター ライフリンク 代表

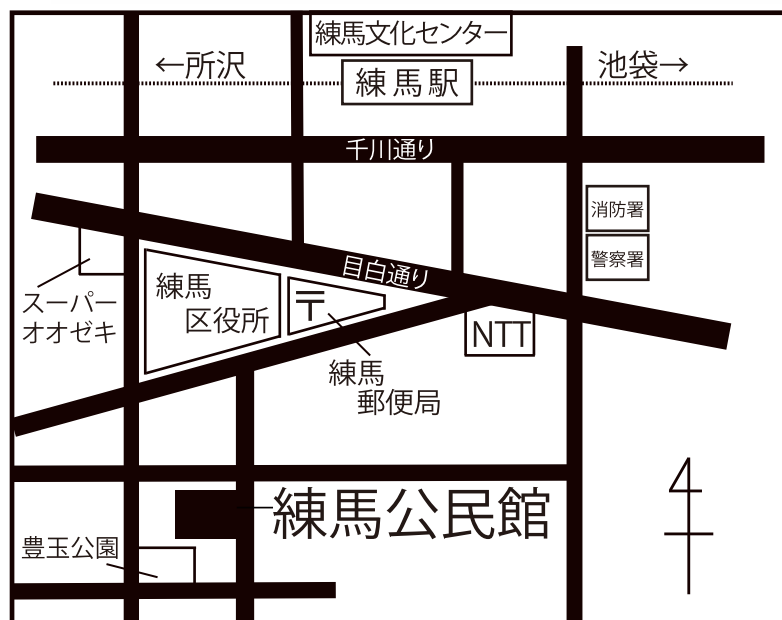
東京都出身。元NHKディレクター。平成13(2001)年、自死遺児たちを一年がかりで取材して『お父さん、死なないで～親が自殺 遺された子どもたち～』を放送。それまで匿名で活動していた自死遺児の素顔をはじめて社会に伝えた番組は、大きな反響を呼ぶ。その後も、遺児や自殺で亡くなった人の遺書、自殺対策等について取材を続けるが、「推進役」のいない日本の自殺対策に限界を感じて、平成16(2004)年春にNHKを退職。自らが自殺対策の「つなぎ役」となって活動していこうと、同年秋にNPO法人ライフリンクを設立し、代表に就任する。

私自身が支援活動に関わることになったきっかけは、NHKのディレクターとして働いていた平成13(2001)年の10月に、テレビ番組で、親を自殺で亡くした子どもたちを取材したことでした。自殺者は「現実から逃げた弱い人」などと偏見の目で見られ、遺族は自分の体験を語るができずにいます。つらい体験を吐き出せないで傷が癒えないまま、その思いを引きずってしまう。(中略)…そんな話を聞いているうちに、遺族が救われない状況は社会の誤解や偏見が生んでいる—問題は自殺者個人にとどまるものではない、と気づきました。

自殺は社会的な問題です。過労や多重債務、職場や学校でのいじめなど、本当はもっと生きていたかったのに、不本意な形で死を押し付けられたケースが非常に多いのが現実です。WHO(世界保健機関)が指摘している通り、自殺とは“避けられる死”。社会全体で取り組むべき課題だということは「自殺対策基本法」でも謳われています。そこで、各地で遺族の方々に体験を語っていただいたり、パネルディスカッションをおこなったりして自殺を取り巻く現状について発信する活動を始めました。社会的な意識を高め、皆さんに「これは自分たちの問題なのだ」と気付いてもらうための啓発活動です。(中略)その実現のためにはさまざまな人達と「つながる」ことがとても重要です。

目指しているのは、だれもが自殺の脅威にさらされることなく、生き心地のよさを感じられる社会の実現。一人ひとりが自分自身であることに満足しながら生きていける—そんな社会が来ることを、心から願って活動しています。

東京都人権啓発センター情報誌「TOKYO 人権」vol.35 リレートーク より



練馬公民館 ホール

練馬区豊玉北 6-8-1

西武池袋線・都営大江戸線「練馬駅」下車徒歩10分
お車でのご来場はご遠慮ください。



いのち
支える

3月は自殺対策強化月間です。